

「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@MSW～



◆プロフィール◆
石井 謙生
宇城総合病院
連携支援課 課長
医療ソーシャルワーカー
趣味：映画鑑賞 魚釣り

「地域全体で支える支援の在り方」

「病気やけがをしたとき、入院したとき、不安になった経験はありませんか？」
「どこの、だれに相談すればいいかわからなかったことはありませんか？」

そのような、心理的不安や生活上の課題、病院内のだれに相談していいかわからないことに対して、福祉の専門的な立場から問題を解決したり、院内の担当者や専門機関につないだりすることが私たち医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）の役割です。自宅以外の環境調整（医療機関・施設等への転院、転所）、就労支援まで対応しています。

具体的支援としては、

- ① 入院費や生活費等の経済的支援の相談に対して医療的・社会的な制度の活用方法の提案を行います。
- ② 病気により体の機能や能力に障がいがあり、日常生活・社会生活が難しくなった時の相談に対しては、地域の社会資源・支援制度の紹介や自宅の環境整備から自宅以外の環境調整（医療機関・施設等への転院、転所）、就労支援まで対応しています。



私たち MSW の基本姿勢は、

- ① 患者さん自身の意思を第一に考えることです。それも、その場しのぎの
一時的な支援とならないように“過去～現在～未来”を見据えた支援を
心掛けています。また、
- ② 患者さんの意向を叶えるために、地域の環境や取り巻く状況、そして家族
の意向や状況等全体をみて支援を行います。それは、患者さんの意向を
叶えるために大きく影響するからです。実際には、②により厳しい現実
（どうしようもない現実）があるのも事実です。

そのため、理想形としてよく耳にする
“地域包括ケアシステム”※1を叶える
ためには、MSW の援助支援のかたちも

「個人援助支援」⇒「**地域全体で患者さんを支える支援**」と成長していかなければ
なりません。それは、「一家族」「一組織」
だけの完結型支援体制では限界があり、
各施設・機関（行政も含めた）の特色と
能力を“つないで”地域全体で支援する
協働型支援体制でなければ「患者さんの意
向く取り巻く環境」となってしまうからで
す。もちろん、その根底として地域住民の
方の一人一人の意識と理解が大切です。



今後「2040年問題」※2を迎えるにあたり、MSWは、

“医療福祉相談レベル（病院における相談業務）⇒
地域連携レベル（多職種連携の構築）”へ、“連携⇒協働”（顔の見える連
携はすでにできている前提）を目標に成長しなければなりません。
そして、その先の“社会連携レベル（まちづくり）”まで求められてくる
と思われます。

私もまだまだではありますが、「患者さんの生活視点」に沿った地域の
医療介護支援チームの一員として、常に前を向いて実現するための努力を
していきたいと思ひます。

※1 要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続ける事ができるように
地域内で助け合う体制です。地域の実情に合わせて医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に
提供される体制を目指しています。

※2 現役世代1.5人が高齢者一人を支える社会。首都圏の急速な高齢化と医療と介護の危機、深
刻な若年労働者の不足、空き家急増こともなう都市の空洞化とインフラの老朽化などが問題となる。

ご存知ですか？ 病院にソーシャルワーカーがいます Socialworker in Health Care

患者さま・ご家族が求める医療は体の治療だけではありません

体が不自由になっては困る
(機能障害)



自分でできないことが
増えると困る
(能力障害)



日常生活 社会生活が
できにくくなっては困る
(参加 活動上の障害)

病気になったらこんな心配も・・・
だれに相談していいかわからないことに
ソーシャルワーカーが相談にのっています



紹介・連携

病院の中で相談のりきれない事柄については適切な機関や施設と連絡をとりあい、紹介します。私たちは、日ごろから相談機関や施設とのネットワークを構築しています。

通訳的役割

病院のスタッフとのやりとりが難しいと感じたら、通訳的な役割を果たします。

権利擁護的役割

みなさまの基本的な人権を尊重するために動きます。

患者さま・ご家族の

お気持ちや立場の理解と共有
みなさまがどのような気持ちで、どのような状況に置かれているか、を病院のスタッフに伝え、チームでみなさんをサポートします。

ソーシャルワーカーの援助とは？

ゆっくりと話を伺います(面接)

話し合う中から解決の糸口が見つかることがあります
あなたの「こうしたい」「こうありたい」をお話ください



情報提供によるサポート

さまざまな制度、しくみ、がどうなっているか、情報を集め、お伝えします。
情報が手に入ると、どうしていくといいかが見えてくる可能性があります。

退院時のさまざまな援助を行います

退院時は、気持ちの準備、物の準備、サービスの準備など、さまざまな準備を必要とします

また、病院は機能分化し、病気が治るまでひとつの病院で過ごすことが難しくなりました。

ソーシャルワーカーは、退院援助として、さまざまな相談をお受けしています。

退院のイメージづくり

状況に応じた退院の選択肢の紹介

(病院や施設)

退院後のサービスの紹介



「ソーシャルワーカー室」「医療福祉相談室」「総合相談室」「患者支援センター」「地域連携室」に所属し、病院を超えて連携し、皆さまを支えます

秘密を守ります

公益社団法人 日本医療社会福祉協会

mail: jaswhc@d3.dion.ne.jp http://www.jaswhs.or.jp/